

地 球 温 暖 化 対 策 実 施 状 況 書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 （届出者）の名称	公立大学法人名古屋市立大学
地球温暖化対策事業者 （届出者）の住所	名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄 1 番地
工場等の名称	名古屋陽子線治療センター
工場等の所在地	名古屋市北区平手町一丁目1番地の 1
業種	医療、福祉
業務部門における 建築物の主たる用途	病院・医療関連施設
建築物の所有形態	自社ビル等（自ら所有し自ら使用している建築物）
事業の概要	がん治療施設
計画期間	令和4年4月1日 ～ 令和7年3月31日

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

公表期間	令和6年7月31日 ～ 令和6年10月29日		
公表方法	○	揭示 閲覧	（場 所） 管理課 施設管理係
		ホーム ページ	（HPアドレス）
		冊 子	（冊子名・ 入手方法）
		その他	（その他詳細）
公表に係る問合せ先	052-991-8121		

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

1. 省資源・省エネルギーの活動を推進します。
2. 廃棄物の発生を抑制し、リサイクルを推進します。
3. 職員への環境教育をすすめます。

(2) 地球温暖化対策の推進体制

【熱供給者との省エネルギーに関する会議】

- ・ 4半期ごとに開催

出席者：病院、熱供給業者、病院・DHC 設備設計、AEMS 設計・施工

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 2 年度目（令和 5 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		1,411	t-CO ₂
（温① 二室を 酸効除 化果く 炭ガス 素換排 算）出量	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）	1,411	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量及び原単位排出量
------------------	--------------

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績				
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度		
温室効果ガス 総 排 出 量	1,334	t-CO ₂	1,294	t-CO ₂	1,348	t-CO ₂	1,411	t-CO ₂	t-CO ₂
削減率（対 基準年度）			3.0	%	▲ 1.0	%	▲ 5.7	%	%
温室効果ガス みなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂	t-CO ₂
削減率（対 基準年度）						%		%	%

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績				
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度		
原単位あたりの 排 出 量	0.2373	/ m ²	0.2302	/ m ²	0.2397	/ m ²	0.2508	/ m ²	/ m ²
削減率（対 基準年度）			3.0	%	▲ 1.0	%	▲ 5.7	%	%
原単位あたりの みなし排出量						/ m ²		/ m ²	/ m ²
削減率（対 基準年度）						%		%	%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

気候の寒暖差、職員の増加及び土日の稼働率が増えたことによって削減目標が達成できなかった。

備考 1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考 2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考 3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考 4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
省エネルギー・省資源の行動の実践・空調	・冷房28℃、暖房20℃の設定、周知、徹底 ・使用していない部屋の全体空調OFF ・（医療上不可能な箇所を除く）全室空調設備を1日2回OFF設定 ・間接蒸気発生器の運転設定の見直し及び手動蒸気元弁の閉止作業の実施		継続中
省エネルギー・省資源の行動の実践・照明	・使用していない部屋や昼休み、時間外の消灯の徹底 ・蛍光灯の高効率型使用 ・照明設備のスケジュール管理及び切り忘れ防止OFF時間の三重設定等	・高効率使用により従来型より約2割減の使用量を目標にする	継続中
省エネルギー・省資源の行動の実践・OA機器	・複写機の未使用時電源オフの徹底 ・院内周知文等の電子化促進		継続中
省エネルギー・省資源の行動の実践・エレベーター	・エレベーターの稼働台数を制御する		継続中
省エネルギー・省資源の行動の実践・水資源	・トイレの洗浄水に雑用水（雨水＋工業用水道）を利用		継続中

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 2 年度目（令和 5 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区 分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電 力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値（クレジット等）の活用状況

計画期間 2 年度目（令和 5 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

--

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

--